

介護ライフスタイル情報誌 [ケアライフトゥデー]

ともに生きる、支える

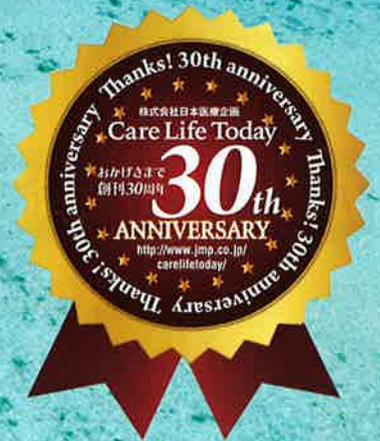
Care Life Today

平成28年6月24日発行 通巻361号
毎月1回 24日発行

2016
July 7

介護×“○○”から何が生まれる？ 新たな介護のカタチを 生み出すリーダー達

特別
特集



おうちで簡単、おいしく食べよう!

Care Life Kitchen [ケアライフキッチン]

定番のそうめんを
日替わりレシピで楽しもう

↑お名前の押印などにご利用ください

老後の“困った”に 応えます 第7回

今回から3回にわたって「遺品整理」「生前整理」について、一般社団法人遺品整理士認定協会理事長の木村榮治さんにお話ししていただきます。生前・死後において、より良い遺品整理や生前整理を行うための方法を一緒に考えていきましょう。

知っておきたい「遺品整理」と「生前整理」

**高齢化の進展に伴い
専門業者の力を借りる時代に**

皆さんもよく耳にする「終活」。周囲が困らないよう、亡くなる前に行う準備・活動のことを主に「終活」といいますが、なかでも、「遺品整理」「生前整理」という言葉を耳にすることが多くなってきたのではないのでしょうか。

遺品整理や生前整理というと、家にあるものを整理したり、処分したりと、大がかりな作業を想像され、「どこから手を付けてよいかわからない」「何から始めたらよいのだろうか」と悩まれる声も多く聞きます。では実際に、「遺品整理」「生前整理」は、どんなことを指すのでしょうか。

「遺品整理」とは、故人が残した遺品を整理することをいいます。以前は、形見分けなどとも呼ばれ、ご遺族が故人のことを想い、思い思いに行っていました。

遺品を見ながら、「こんなことがあったな」と振り返られる方も多く、涙を流しながら、故人が着て

いた衣服や身に着けていたもの、大切に保管されていたものなどを一つずつ整理されていました。

昨今は、体力的または時間的な理由から、自分たちの力だけでは難しく、専門業者の力を借りなくてはならない状況が生まれていま



遺品整理作業の様子

す。そこで、台頭してきたのが「遺品整理業者」です。さらに、最近の傾向として、「亡くなってから周りが困らないように」と、高齢者本人が生前の準備として、「生前整理」も多く行うようになってきています。

高齢化が進み、ものの整理の担い手となる方々も高齢になったこと

で、誰かの手を借りなくてはならない状況が日々広がっていくことが予想されます。

「身内や親族の間で行われるべきもの」というイメージを強く持たれていたたり、「一生に一度のことなのに、誰に何を相談してよいかわからない」という声がとても多くなっており、こうした悩みを一手に引き受ける存在として、私たちは「遺品整理士」という遺品整理業の専門家の育成を行っています。

生前・死後において、よりよい遺品整理や生前整理を行うため、専門業者に依頼することは何も恥ずかしいことではありません。安心を提供するお近くの「遺品整理士」にご相談いただければいかがでしょうか。



木村榮治

きむら・えいじ ● 一般社団法人遺品整理士認定協会 理事長、一般社団法人事件現場特殊清掃センター 理事長。「遺品整理士」の資格認定のみならず、「自分の身・周囲の安全を守り、作業を行う」ことが必要とされる「特殊清掃」に関する「事件現場特殊清掃士」資格を創設するなど、遺品整理に係るラブルや孤立死・ごみ屋敷の増加といった社会問題に対して、使命を持って立ち向かっている